

平成30年度 (一社) 山口県介護支援専門員協会 理事会  
議事録

1 日 時

平成31年 3月 2日 (土) 午前10時から正午まで

2 会 場

山口県社会福祉会館2階 第4会議室

3 出席者

(1) 理事 定数 29名  
出席者数 23名  
出席者名  
二井隆一 松谷法史 津田桂揮 中村 恵 堀田慎一郎  
木村友和 末富琢馬 高島晴紀 森永幸宏 山本 誠  
善本和也 杉本幸子 山本亜紀 上野丘恵 三井栄三  
熊野かおり 藤元英子 岩神亜紀 藤本真樹 福井治枝  
吉武康幸 小林 恵 古谷将秀

(2) 監事 定数 2名  
出席者数 2名  
服部恭弥 佐々木啓太

(3) オブザーバー  
藤元英子

(4) 事務局 福本かおる 岡村智子 杉本貴子

4 報告事項

・平成30年度予算執行状況について

5 上程議案

第1号議案 各部会の活動状況・次年度計画について  
第2号議案 平成31年度事業計画・予算案について  
第3号議案 日本協会次期改選に伴う代議員の選出について  
第4号議案 全国大会について  
第5号議案 会員管理システムの導入・運用について  
第6号議案 次期制度改正時における居宅介護支援事業所利用者負担導入について

6 そ の 他

7 審議の経過

松谷副会長 二井会長より挨拶をいただく。

二井会長 今年度の予算執行状況と、財政状況を報告し、皆さんの意見をいただき、次年度の予算に反映していきたい。  
また、柳井広域の中重理事の退任に伴い、後任の藤元英子氏を紹介し、自己紹介いただく。次年度の代議員総会で承認を得て、正式に理事として就任いただく流れになることを報告する。  
理事会の後、賛助会員の日本トリムよりセミナー開催予定を伝える。

事務局

平成30年度予算執行状況について事務局より説明。収入の部について、会員は増え現在1511名。昨年より9名増。賛助会員も昨年より4企業増え10企業になった。県からの受託金、助成金は予算額と同額決算となる。

参加費収入の実務研修受講者予定者数を180名に対し70名で大幅に減少し、100名分の見込み違いとなった。新たに実務なし・再研修を受託でき、今年度80名の受講者となった。自主研修、主任介護支援専門員更新研修要件研修について、受講料を値下げしたこと、要件が緩和されたことに伴い受講者が減ったことで、収入に影響しており事業収入が全体で640万円減額となっている。

繰越金については、1,834万円程度の見込みとなり、収支は400万円程度減額になる。当会で受託している法定研修は、県からの補助がないため、受講者数に左右されているのが現状である。研修企画等、安定した財源確保に向け動いている。

二井会長

支出は予算通りまた、予算より少なく執行されているが、収入において、実務研修が昨年度は駆け込み受講で合格者も増えたが、今年度は受講者要件が厳しくなり、受講者減少に伴い、合格者も1割と63名にとどまった。残り1か月なのでこの状況で決算となる。

末富理事

今年度赤という事で来年度どう予算を取るか。正確な所が気になる。

二井会長

実務なし・再研修の法定研修が、次年度より県社協から当会へ実施機関が変わるが、実務なし・再研修と実務研修は県よりの補助金がないため受講料のみとなるので、受講者数に左右される。31年度は実務なし・再研修は春、冬3コース実施、実務研修も今年ほど受講者数が少ないことはない。会員数の増員、研修で少しでも盛り返していければと考えている。次年度の予算については後程報告する。

高島理事

受講生の減少については仕方ないところがあると思う。今後は、ケアプラン点検など委託がいただけるところにアプローチしていく。柱に頼りすぎるとよくないのではないかと思う。

松谷副会長

続いて第1号議案 各部会の活動状況・次年度計画について各部より説明いただく。

津田理事

組織総務部より先日の部会で次年度事業計画（案）の中の、災害発生時の対応方法を定めたマニュアルを中心に協議を行った。各地域の各種災害に適した避難所や高齢者及び障害者の受け入れが可能な福祉避難所の情

報、被災地近隣の受け入れ施設等の社会資源について、各地域協（議）会へアンケートを行い、マニュアルに盛り込んではどうかという意見が出た。情報収集シートについて、災害発生時に各地域協（議）会に作成してもらうため情報の流れ、窓口等の集収方法についても一度確認する。岡山などでは地域性が違うこともあるため、参考にしながら山口版を作成したらどうかとの意見がある。

平成31年山口県ケアマネジメント研究大会について大会テーマを「つながる・支える 医療介護の連携マネジメント」～尊厳ある看取りのために～と題し講師は和歌山県の安川診療所院長安川修先生に橘副会長より打診予定。生と死を歌にして披露してくれる予定。研究大会の日時は講師の都合にもよる。

松谷副会長 安川先生は下関に来ていただいた経緯があり、集客率等を見込み決定。日程は講師と10月5、6、14、26、27日で調整中。会場はセミナーパークの予定である。

堀田理事 広報事業部より今年度第2回広報誌の発行について内容の確認をした。昨年7月の豪雨災害により広島、岡山、光市で実際に被害にあわれた施設の様子、周防大島での断水による災害についての特集を組む。各地域協会の更新等があればHPでお知らせする。その他、地域のイベントや施設の夏祭り等に参加し県協会をアピールできる場があれば参加したい。情報提供をお願いします。

山本理事 公益事業部より今年度の活動について、ケアプラン点検の各実施内容をまとめたうえで、点検のまとめについてチェック方法を考えていき情報提供していきたい。次年度は山口市からの委託も決まり、下関市の経験を踏まえ、チェック表の変更点についても活動された方より意見を求めたい。広報部と協力し、各地域協議会に聞き取りをしながら、研修の相互乗り入れの調査を進めHP上にまとめ掲載しているので今後もこのような活動を継続していきたい。

末富理事 今後、下関に続く点検事業を拡大していく予定はあるのか。

山本理事 下関から始まり、山口からも声をかけていただいた経緯はある。当会からのアピールはしておらず、他の市町からの依頼はないが今後、他の市町からも声が上がるのではないかと考える。

杉本理事 チェックだけではわからない部分もでてくるし、話を聞いていくうちに

いろいろ質問も出てきた。

津田理事 実際を受けた側として、事業所単位で流れとか、ケアプランの立て方も違うと思うが、違う視点や介護支援専門員としてのアドバイスをいただけたので素直に受け入れられた。業務に関して意識して仕事をするようになり変化があった。介護支援専門員の考え方、意識の持ち方によってはケアプラン点検の意図が変わるので注意が必要。

山本理事 下関だけの感想だが、を受けた側は良かったと言われる事業所もあり、自分の見直しにもなった。効果としては良いものとしての手ごたえはある。個々の考え、評価ではいけない。来年度、山口市の点検に行くまでに、事前に養成研修等の必要があるのではないか。

上野理事 調査研究部より研究のための環境整備とし、倫理委員会の設置検討の必要性を感じ、県立大学の横山教授に相談し準備を始める。『人を対象とする医学系研究倫理指針ガイダンス』が大切とのことで、横山先生より同大学、濱村正博先生を紹介された。2020年4月には倫理委員会を立ち上げたい。委員会会員には各条件があることを説明。

研究のための研修会の指導を山口大学の山根先生へお願いしている。8月頃、インプットしたものをアウトプット出来るような講義と演習の内容で、セミナーパークで開催予定。20名程度の参加者を見込む。

第16回の研究発表は、防府市、長門市は指導者へのマッチングも進み準備を開始している。光市は、徳山大学の徳重先生への指導が決まっているが、そこから進んではない。岩国市は今年度も発表は難しいとの報告があった。各地域に研究についてバックアップできる組織はあるのか。光市、周防大島、萩市は理事会＝研修となる。周南市、長門市、下関市も研修担当はあるが研究部はない。研究発表の輪番が回ってきた時に研究部を立ち上げている状況であり、毎年設置しているわけではない。防府は地域支援部として活動している。

今年度は2名の公募があった。大会テーマが早めに決まれば、広く案内でき輪番制ではなく主任要件と合わせて公募でも上がってくるのではないか。現在は研究発表のテーマを定めず、発表者が取組みたい内容を幅広く募集している。2年前までにテーマを決めると良いのだが、現在の状況にマッチしているかどうかは疑問がある。

岩神理事 生涯研修部より介護予防プラン4月23日、実務事務5月25日、28日の2日間で開催する。各施設へFAX、実務研修受講者に案内し、会員へ要項を郵送する。

主任更新研修受講要件研修について、次年度、県は要件をさらに緩和

したい様子のため、県の動向を見てから組み立てる。今までは毎年研修を4回必ず受講しなければならなかったが、今年度4月に改正があり更新までの5年のうちに8回以上かついずれかの年度で4回以上参加となった。受講料について、部内で協議したところ、金額ではなく受講して良かったと思われるかどうか重要であり、県外から講師を呼んでも充実した研修の方が良いのではないかとの声があった。

二井会長 今年度、受講料の負担を軽くしたい為に下げている。毎年変動するのは良くないのではないか。

岩神理事 年間4回という要件が緩和されない場合、4回は必ず実施する。受講料3,000円でもよいのではないかと思うが今年度は2,000円に下げているため、講師により価格に差が出るのもやむを得ないのではないかとも思う。

自主研修について、要件研修の緩和に伴い自主研修に力を入れたい。現場に則したもの、他協会との共同開催、ケアマネが何を学ばよいか、メリットがあるか等、スキルアップ研修を受講者は希望している。ヘルパー、介護職との連携の必要性、デイ協等と組織で共同研修できないだろうか。ケアプランについて多職種でお互いの意見が聞きたい。

二井会長 第2号議案平成31年度事業計画案について説明。介護支援専門員数が足りない。魅力ある職種という事で負担軽減なども含め、個人のレベルアップ、組織の強化を目的に勧めたい。佐々木常任理事、橋副会長が日本の窓口でもある。全国大会への準備や災害マニュアルの整備等もある。あまり変わってないが、会員数2000人に向け、31年度はこのような計画を準備している。

服部理事 行政への発信力を協会とし、議会、行政への発言力等しっかり動いている所も盛り込んだ方がよい。組織力強化へ繋がるのではないか。

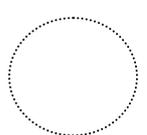
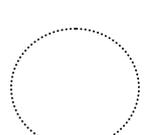
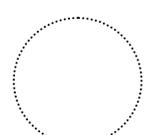
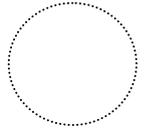
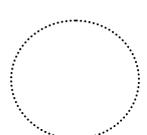
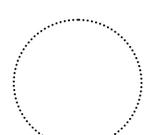
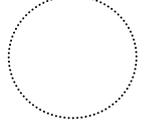
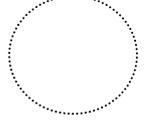
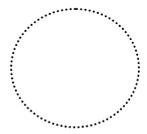
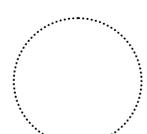
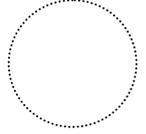
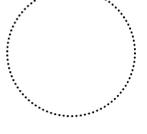
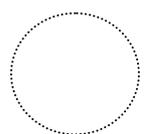
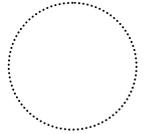
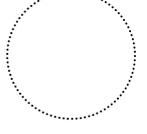
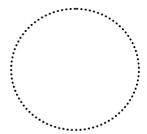
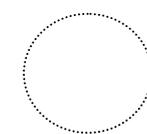
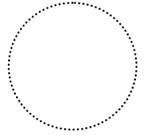
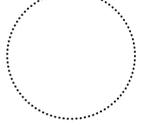
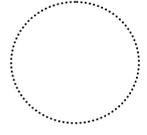
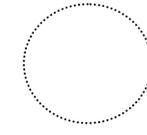
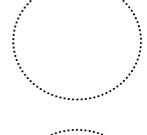
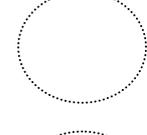
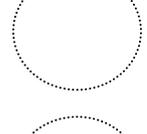
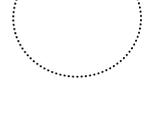
事務局 続けて平成31年度予算案について事務局より説明。

末富理事 事務局が具体的にどのような仕事をしているか教えていただきたい。

二井会長 今後法定研修を増やす見込みであり強化のため増員している。  
研修に理事の協力員を要請していたが今年度より事務局内で賄っている。

- 事務局 会議運営、研修関係、会計関係、全ての事業を4名で分担して業務に就き事務局強化を図っている。
- 藤本理事 執行状況と案の予算の額が違う。
- 事務局 切り捨ての関係で若干違っているが、総会資料には切り捨てたものを使用する。
- 二井会長 第3号議案日本協会次期改選に伴う代議員の選出について説明。500名に1名の代議員選出となり、日本協会へ期日までに1500名を超えた名簿を知らせており、会費振込を期日までにできない事を伝えたにも関わらず、議員数が4名から1名減の3名となっていた。
- 佐々木監事 日本協会の事務局ルールとしてそのような話があったので異議申立を提出している。選出規約の配分に前年度の1月末日現在の時点での名簿、会費の納入は支部の納入日に定めるとしているのでは4名になるのではないかと思っている。
- 二井会長 第4号議案全国大会について説明。実行委員立上げの為、三役、組織総務、佐々木監事で準備委員会を作り、正式な実行委員を立ち上げたい。会場について新山口に建設中のコンベンションホールも考慮している。それについて諮りたい。
- 佐々木監事 石川大会を参考に中国5県で協力体制を作りたい。
- 服部監事 会場を2年前に決め、同時に旅行会社の選定を早めに進めていった方が良い。
- 佐々木監事 第5号議案会員管理システムの導入・運用について説明。受講管理や、eラーニングについても反映できることになる。会員管理システム開始について次年度は難しい。次年度以降会員管理システムを使用したい。会員については紙ベースで届いている情報をWEB上で管理することになる。資料のご提示をしていきたい。会費についても支部でまとめていたが、個人で県に納入してもらうこととなる。
- 事務局 次年度中に準備を勧め32年度に導入していきたい。会費納入について、銀行振り込みにするか、口座引き落としが良いとの声を聞いているので対応方法を検討したい。



	出席理事	中村 恵			出席理事	熊野かおり	
	出席理事	堀田慎一郎			出席理事	岩神亜紀	
	出席理事	木村友和			出席理事	藤本真樹	
	出席理事	末富琢馬			出席理事	福井治枝	
	出席理事	高島晴紀			出席理事	吉武康幸	
	出席理事	森永幸宏			出席理事	小林 恵	
	出席理事	山本 誠			出席理事	古谷将秀	
	出席理事	善本和也			出席監事	服部恭弥	
	出席理事	杉本幸子			出席監事	佐々木啓太	